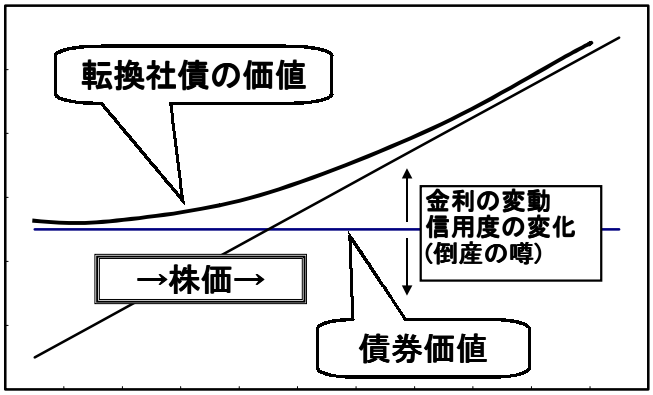
ボブべっくのやさしい投資信託

第２１回　転換社債に投資するファンド
その２

(7)転換社債ファンドのリスク

(a)転換社債って何？

前回は転換社債の性質について解説しました。転換社債は、株価が上昇するにつれて、株価と一緒に上昇します。しかし、株価が下落したとしても、転換社債の債券としての価値があるので、その債券価値よりも安くはならないのです。しかし、その債券価値は、金利水準、そしてその債券の格付によって変わります。これを図にすると以下のようになります。

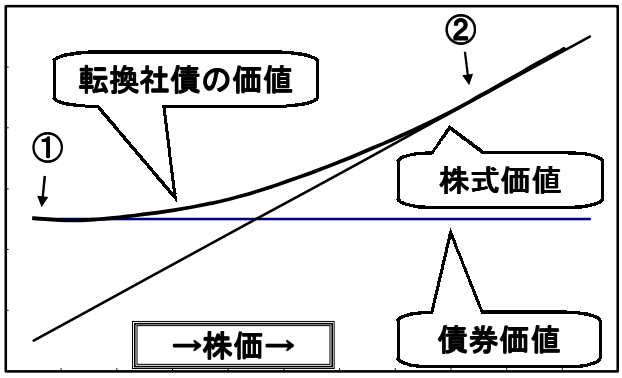


ただし、何度も申し上げるように、転換社債は債券ですから、額面(100 円)を下回っている場合には、償還日が近づくとともに、その価格は額面に近づいていきます。利回りがプラスの転換社債であれば、その会社が倒産しない限り、償還まで保有する事で購入時の利回りが確保される上に、株式が上昇した場合には、株式に連動した価格の上昇が期待できるのです。

(b)転換社債に投資するファンドのリスク

それでは、転換社債に投資するファンドについて、そのリスクとリターンに焦点を当てましょう。

転換社債に投資するファンドは、運用方針、つまりどんな転換社債に投資するのかによって、そのリスクが大きく違います。何故なら、転換社債はその価格水準によって、リスクが全く違うからなのです。下の図を見てみましょう。



転換社債が①の位置にある時、つまり株価が転換価格よりもずっと低く、転換社債が社債としての価値しか持たないときには、株価の変動にはほとんど影響を受けません。ですから、償還まで保有すれば、購入時の利回りを確保できます。①の位置にある転換社債ばかりを購入するファンドであれば、ファンド設定時にある程度の利回りを見こみながら、将来の株価の値上がりを楽しみにすることが出来る、非常に安全なファンドになるでしょう。

しかし、転換社債が②の位置にある時、転換社債の価格は、ほぼ株価と連動します。株価が上がれば転換社債の価格も上がるし、株価が下がれば転換社債の価格も、債券価値までは株価に連動して下がるのです。株式投資と同じ位、リスクの高い投資となるのです。そのため、②の位置にある転換社債を購入するファンドは、株式投信とほぼ同じようなリスクを持つ事になります。

(c)単位型投資信託の場合

単位型投資信託、つまりファンドの設定日以降に追加購入が出来ないファンドの場合は、それほど心配する事はありません。投資の基本方針が上の図の①にあるような転換社債にのみ投資するという事であれば、債券投資と同程度のリスクで、株価が上昇すれば、その値上がり益を楽しみに出来るファンドと考えて良いでしょう。